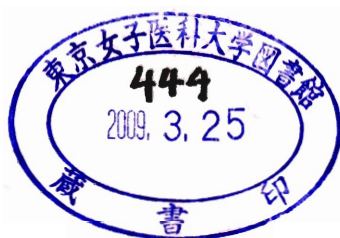

10代妊婦のQOLを高めるための心理・社会的な状況と
支援構築に関する研究

(課題番号：17592278)

平成17年度～平成19年度科学研究費補助金

基盤研究(C) 研究成果報告書



平成20年3月

研究代表者 小川 久貴子

東京女子医科大学 看護学部 准教授



10 代妊婦の QOL を高めるための心理・社会的な状況と
支援構築に関する研究

(課題番号：17592278)

平成 17 年度～平成 19 年度科学研究費補助金

基盤研究 (C) 研究成果報告書

平成20年 3 月

研究代表者 小川 久貴子

東京女子医科大学 看護学部 准教授

はしがき

わが国における 10 代女性の出生数は、1997 年から 2002 年にかけてわずかに上昇が続けたが、2003 年より若干減少している。しかし、10 代の周産期死亡率は 40 歳以上に次いで高く、10 代妊婦の初診時期の遅れや不十分な自己管理が影響を及ぼしていると考えられているが、そのような状況を招く 10 代妊婦の心理・社会的な状況の探求には、現段階では至っていないといえる。

先行研究の大半は、医療者側からの 10 代妊婦と他年齢妊婦の属性や臨床所見等を比較した量的研究が多く、10 代妊婦自身の視点からの解明が見落とされている傾向にある。近年、18 歳以下の若年母が出産直後に新生児を遺棄する事件が頻発している。このような悲惨な状況は、妊娠期からの 10 代女性や家族への理解や支援の不足から生じていると推察される。そこで研究者らは、10 代妊婦の QOL を高めるために心理・社会的な状況を明らかにするとともに、その特徴に応じた支援構築を模索することにした。

本研究は、文部科学省科学研究費基盤研究 C の補助金に基づいて、10 代妊婦の心理・社会的な状況を探るために、国内の 10 代妊婦に関する文献調査や統計調査、及び北米における若年妊婦・母支援の調査と国内における 10 代妊婦の実態調査を行った。さらに、上述の予備調査や実態調査に基づいた支援として、10 代妊婦のピア交流を試みながら、その特徴に応じた支援プログラムを構築した。本研究の結果は、関連学会での口頭発表を行い、論文にまとめて発表してきたものであり、それらを一括して報告書にしたものである。

この研究を支えて下さいました皆様方のご協力に厚くお礼を申し上げます。

平成 20 年 3 月 31 日

研究組織

研究代表者： 小川 久貴子（東京女子医科大学・看護学部・准教授）

研究分担者： 恵美須 文枝（首都大学東京・健康福祉学部・教授）
久米 美代子（東京女子医科大学・看護学部・教授）

研究協力者： 安達 久美子（首都大学東京・健康福祉学部・准教授）
山本 久美子（医療生協埼玉協同病院・産婦人科・助産師）
鈴木 麻理（医療生協埼玉協同病院・産婦人科・助産師）
清水 千春（医療生協埼玉協同病院・産婦人科・助産師）
村田 里美（医療生協埼玉協同病院・産婦人科・看護長）
柳澤 陽香（元医療生協埼玉協同病院・産婦人科・助産師）

交付決定額（配分額）

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合 計 |
|----------|-----------|---------|-----------|
| 平成 17 年度 | 2,000,000 | 0 | 2,000,000 |
| 平成 18 年度 | 900,000 | 0 | 900,000 |
| 平成 19 年度 | 500,000 | 150,000 | 650,000 |
| 総 計 | 3,400,000 | 150,000 | 3,550,000 |

研究発表

(1) 雑誌論文

- 1) 小川久貴子, 恵美須文枝, 安達久美子: 10 代妊婦に関する研究の動向 - 1990 年から 2004 年の国内文献のエビデンスレベル -, 日本助産学会誌, 査読有, 第 19 巻, 第 1 号, 2005, 52 - 63.
- 2) 小川久貴子, 安達久美子, 恵美須文枝: 10 代妊婦に関する研究内容の分析と今後の課題 - 1990 年から 2005 年の国内文献の調査から -, 日本助産学会誌, 査読有, 第 20 巻, 第 2 号, 2006, 50 - 63.
- 3) 安達久美子, 恵美須文枝, 小川久貴子: 統計からみた 10 代女性の出産, 思春期学, 査読有, 第 24 巻, 第 2 号, 2006, 407 - 414.
- 4) 小川久貴子, 安達久美子, 恵美須文枝: 10 代女性が妊娠を継続するに至った体験, 日本助産学会誌, 査読有, 第 21 巻, 第 1 号, 2007, 7-29.
- 5) 安達久美子, 小川久貴子, 恵美須文枝: 若年母への対応に関する支援者の姿勢 - 北米における調査から -, 日本助産学会誌, 査読有, 第 21 巻, 第 1 号, 2007, 52-59.

- 6) 小川久貴子, 清水千春, 柳澤陽香, 村田里美, 恵美須文枝, 10 代妊婦に対する外来でのピア交流活動を含めた支援の試み, 助産雑誌, 査読有, 第 61 巻, 第 9 号, 2007, 787-793.
- 7) 小川久貴子, 清水千春, 柳澤陽香, 村田里美, 恵美須文枝, 10 代妊婦の支援プログラムの作成, 助産雑誌, 査読有, 第 61 巻, 第 10 号, 2007, 878-883.

(2) 学会発表

- 1) 小川久貴子, 恵美須文枝, 安達久美子: 若年妊婦に関する実態と課題 -1990 年以降の文献内容の分析から-, 第 19 回日本助産学会学術集会, 2005 年 3 月 20 日, 国立京都国際会館.
- 2) 安達久美子, 恵美須文枝, 小川久貴子: 統計からみた 10 代女性の出産の現状, 第 19 回日本助産学会学術集会, 2005 年 3 月 20 日, 国立京都国際会館.
- 3) 小川久貴子, 恵美須文枝, 安達久美子: 北米における 10 代妊婦及び若年母の支援に関する実態, 第 15 回日本保健科学学会学術集会, 2006 年 2 月 4 日, 首都大学東京.
- 4) 安達久美子, 恵美須文枝, 小川久貴子: 若年母への対応のあり方の検討 -北米における支援組織メンバーの視点から-, 第 15 回日本保健科学学会学術集会, 2006 年 2 月 4 日, 首都大学東京.
- 5) 小川久貴子, 恵美須文枝, 安達久美子: 10 代女性が妊娠を継続するに至った体験の分析, 第 16 回日本保健科学学会学術集会, 2006 年 9 月 2 日, 首都大学東京.
- 6) 小川久貴子, 柳澤陽香, 村田里美, 恵美須文枝, 久米美代子: 10 代妊婦クラスのプログラム作成の試み, 第 47 回日本母性衛生学会学術集会, 2006 年 11 月 9 日, 名古屋国際会議場.
- 7) 鈴木麻理, 山本久美子, 小川久貴子, 恵美須文枝: 10 代の妊産婦に対する当院の取り組み, 第 48 回日本母性衛生学会学術集会, 2007 年 10 月 11 日, つくば国際会議場.
- 8) 小川久貴子, 安達久美子, 高田昌代: ピア養成講座においてライフライン描写の導入を試みて, 第 48 回日本母性衛生学会学術集会, 2007 年 10 月 11 日, つくば国際会議場.
- 9) 安達久美子, 小川久貴子, 恵美須文枝: 10 代妊婦の支援のあり方, 第 22 回日本助産学会学術集会, 2008 年 3 月 16 日, 神戸国際会議場.
- 10) Kukiko OGAWA, Kumiko ADACHI, Humie EMISU: Issues with Japanese teenage mothers "a review of research literature from 1990 to 2005", ICM Congress in Glasgow, 2008. June (発表予定).
- 11) Kumiko ADACHI, Kukiko OGAWA, Humie EMISU: Teen mothers in Japan, ICM Congress in Glasgow, 2008. June (発表予定).

研 究 成 果

目 次

第Ⅰ章 10代妊婦の心理・社会的な状況

1. 10代妊婦に関する研究の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 10代妊婦に関する研究内容の分析と今後の課題・・・・・・・・ 13
3. 統計からみた10代の女性の出産・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
4. 若年母への対応に関する支援者の姿勢・・・・・・・・・・・・ 35
5. 10代女性が妊娠を継続するに至った体験・・・・・・・・・・・・ 43

第Ⅱ章 10代妊婦の支援構築

1. 10代妊婦に対する外来でのピア交流活動を含めた支援の試み・・・ 57
2. 10代妊婦の支援プログラムの作成・・・・・・・・・・・・・・ 64

第Ⅲ章 今後の研究の展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71